

こまざわ経済通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1

「経済学部同窓会長大場康宣氏ご逝去」のお知らせ



令和6年4月15日、本会会長大場康宣氏が急性骨髄性白血病のため逝去されました。享年七六 4月21日お通夜、22日告別式が渋谷区の代々幡斎場でおこなわれました。

大場氏は昭和45年経済学部商学科を卒業し大場百貨店入社。平成7年政界に入り世田谷区議会議員に選出されて5期務められ、平成19年に第56代世田谷区議会議長にも就任されました。平成24年に東京都議会議員に選出され3期務められました。

平成17年に経済学部同窓会長に就任され、20年にわたり本会の組織運営の中心として活躍されました。また、駒澤大学評議員、駒澤大学同窓会副会長等も兼務され母校の発展に多方面で力を尽くされました。

経済学部同窓会長としては、会員の高齢化と減少という困難のなかで組織維持に奮闘され、学生や教員との関係強化に尽力され、「経済学部創立70年を祝う会」(2019年12月1日)等の行事を成功に導かれました。

大場会長がとくに心を砕かれたのは後輩となる経済学部学生のことであり、毎年「こまざわ経済通信」に卒業生への祝辞を寄せられました。今年度はコロナ禍での学生生活を送った学生に、特異な環境で得た体験や思考を学問によって言葉として次世代へと引き継ぐことで、平和で持続可能な社会を築くために貢献する社会人となるよう励ましのメッセージを贈られました。(第52号, 2024年3月) また、ホームカミングデーや学生シンポジウムにも積極的に参加され、懇親会等でも学生との直接的な交流に努められました。

長年にわたり本会の発展に尽くされた大場会長に深謝するとともに、その功績を想い、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

令和6年6月4日
経済学部同窓会役員一同

経済学部同窓会長 大場康宣先生を偲んで

このたびは経済学部同窓会長大場康宣(やすのぶ)先生の訃報に接し衷心より哀悼の意を表するとともに先生のご冥福をお祈り申し上げます。

経済学部同窓会の会長は初代木下剛志氏(1993年～)が、第二代勝場政範氏(1997年～)が務められ、2005年大場康宣氏が第三代会長に就かれました。

大場会長は駒澤大学の評議委員、ホームカミングデー委員長、駒澤大学同窓会副会長を歴任され、学内状況もよく周知されて経済学部同窓会の第三代会長には最適任とのことで、就任をお願いすることになりました。都議会議員でもありご多忙を懸念いたしました、「経済学部の発展に私で役立つならば職務を全うしたい」とご快諾いただきました。大場先生は実に母校愛にあふれた、誠にお心の広い方でありました。

会長にご就任後は、過密な日程の合間を縫って経済学部同窓会の役員会に精力的に出席されました。会議ではいつも大学の将来をみすえ、卒業生と経済学部同窓会の在り方を真剣に考えて発言される遠望神慮の方でした。ひとたび会議が終われば役員とも気軽に話され、冗談を言って笑わせる気さくな方で、20年間の長きにわたり経済学部同窓会の充実と発展を支えて来られました。

私は大場会長ご就任以来、会長のサポート役を担ってきました。経済学部を定年退職する少し前には大学のホームカミングデー委員も務めたため、何かにつけよくご相談させていただきました。

毎年開催のホームカミングデーには経済学部同窓会も会場に特設ブースを設け、同窓生との交流や「こまざわ経済通信」の配布をしており、ブースで大場会長自ら通信の配布をされていました。

2014年開催のホームカミングデーでは、東京オリンピック競技大会担当大臣の橋本聖子参議院議員による基調講演(テーマ「オリンピック・パラリンピックがもたらすもの」)が催されました。応接役を務めていた大場会長は、講演終了後、少しの時間でしたが橋本大臣とオリンピックについて意見を交わされました。大臣と真剣な眼差しで意見を交わす大場会長の表情はまさしく政治家の顔で、生き生きとした嬉しそうな顔がとても印象的でした。

経済学部同窓会会長としてのご生前の思い出がこみ上げ、ご他界されたこと今でも信じられない気持ちでいっぱいです。

大場会長の功績を偲び、生前のご厚情に深く感謝し、謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。

基調講演終了後、
会長さんの希望で撮った記念写真です。



中央が橋本聖子大臣、右は大場会長
(2014年11月1日記念講堂にて撮影)

谷 敷 正 光

(駒澤大学名誉教授)

経済学部同窓会長 大場康宣先生を偲んで

大場会長を偲んで

10年程前、経済学部同窓会の役員会を長らく欠席していたこともあり、役員を辞任するには皆さんに会って挨拶をしようと思い出席したのですが、役員メンバーが殆ど変わっておらず、大場会長からも引き続き協力してくれるよう要請を受け、役員にとどまることにしたのです。この時が大場会長との出会いでした。

大場会長は平成7年政界入り後、世田谷区議、東京都議を務められ、その間平成17年から経済学部同窓会長と駒澤大学同窓会副会長を歴任され、まさに東京都、世田谷区、駒澤大学の発展と同窓生、在校生の支援に大いに貢献されました。

大場会長はグイグイ引っ張って行くタイプではなく協調性を重んじる調整型の方で、懸案の若い会員の増加策、役員若返り等難しい諸問題で議論が白熱するような場面では常に冷静に対応し、まとめられておりました。

大学の発展には大学、教授をはじめとした先生方、職員の方々、学生、同窓会が力を合わせる事が重要です。現状ではその結びつきが十分に発揮されておられません。

駒澤大学には多方面で活躍している同窓生が大勢おり、知名度の高い運動部があり、特に箱根駅伝の駒大を知らない人はおりません。これら全てが一致団結すれば大きなうねりとなり、皆が誇りを持って前進する事ができると考えます。

大場会長の永年の努力に報いるためにも、実現に向かっていかなければならない。

昭和42年卒業 北澤 文彦

お悔やみ申し上げます。

大場会長は、我が母校経済学部同窓会に長年に渡り会の発展に尽くされたことに、その功績を思い心よりご冥福をお祈り申し上げます。

私は昭和43年卒、北海道教養部出身であります。社会人になり大学との接点は矢吹先生のゼミの仲間で作った矢吹会でした。その後同窓会を認識し矢吹会にも参加を求め中、同窓会役員1人になり大場会長を知ることができました。

会長は当時世田谷区からの都議会議員で、後輩である学生、教職員、大学との関係強化に向け尽力されておりました。学生シンボジウム、ゼミ対抗球技大会への支援を含む同窓会活動を通じ、会員同士の絆を深めるなか、5年前の12月に経済学部設立70年を祝う会が開かれ、また同窓会として総会、講演会、親睦会を開き多数の参加を頂きました。

参加者からアンケートを頂き、今後の同窓会の課題も見えて来ました。会員の高齢化、新人会員の減少など、今後への問題提議もあり、会長も悩んでおられるなか、今回突然のご逝去であられました。

今後の大学の在り方・同窓会のあり方などについて、会長の意志を汲みとり、会員同士と話合っていきたいと思えます。

会長へ、心よりご冥福お祈り申し上げます。

昭和43年卒業 石塚 武

経済学部同窓会会長 大場康宣先生を偲んで

大場康宜同窓会会長のご逝去を悼む

突然の訃報に本当に驚きました。学部の同期でもあり、本会が難しい状況にある昨今もう少し会長として指導力を発揮して頂きたかった。誠に残念です。

私は、平成22年江戸川ケーブルテレビ株式会社の役員退任を機に平成23（2011）年の第6回総会で幹事に選任されて以降大場会長の下で同窓会の運営に関わらせて頂いております。大場会長は議員を務められ、中々多忙な中での同窓会役員会出席であったろうと思いますが、会長としての会議進行はやはり「プロ」だなと毎回感心いたしましたものです。

「経済学部創立70周年」事業の開催資料印刷等の際してもご自身の活動経験から低価格の印刷システムの利用を指示されるなど会の財政にも配慮した運営を常に意識されているなど感じておりました。幅広い人脈と経験は色々な面で会運営を助けており、役員一同、常にたよりにもしておりました。代り得る人材のいない同窓会として大場会長の強い意思を引き継ぎ今後の同窓会運営をどのように進めるべきか役員一同心を痛めているところです。あまりにも突然のことであり言葉がありません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌

昭和45年卒業 柚木 駿一

約20年という永きにわたり経済学部同窓会の運営に尽力された大場会長の訃報に接し、心からお悔やみ申し上げます。

大場会長との最初の関わり合いは、平成17年に亡くなられた前同窓会長勝場さんの弔問に大場新会長が赴くので同道するように、谷敷正光先生から依頼されたことに始まります。当時、名ばかりの副会長であった私が供花を用意して、同道することになり三軒茶屋駅で待ち合せ勝場邸に赴くことになりました。私は待ち合わせ時間30分前に駅で待機することにしました。当時大場会長は多事な身であるにも関わらず、早々に来られたことを記憶しています。弔問当時、大場会長は多忙であり、私も不慣れで同窓会の諸事について深く話しをすることは出来ませんでした。

同窓会役員会の議事運営や総会に関しては、さすがに区議会議長という要職に就いていたこともあり手際よくこなされていました。

同窓会の運営には係わりはないが個人的な興味で、三軒茶屋地域経済の担い手として「大場百貨店」の経営や「大場家」についての話を常々聞きたいと思ってはいましたが、機会を逸し聞かず仕舞いに終わってしまったことが悔やまれてなりません。

昭和49年卒業 幸野 保典